

梅鶯仏教壮年会報

第175号
2022年
3月19日

梅鶯仏教壮定期 総会

三月二十六日(土)

午後五時より

役員会

同日 午後四時より

* 新型コロナウイルス感染防止のため、本年度の懇親会は中止致します。

人はすべて暴力におびえる
すべての者にとって
生命は愛しい
わが身にひきあてて
殺してはならない
殺させてはならない

仏典「法句経ダンマ・パダ」

(質問) 蓮如上人は「他流に
は、名号より絵像、絵像より
は、木像より絵像、絵像より
は、木像より絵像、絵像より
名号というなり」(御一代記
聞書)と仰つてます。本願寺
では木像を本尊とされてお
り、上人の意に反するのでは
ないですか？

大切な質問を頂きました。
た。まず、私達念仏者の帰依
の対象は、本願を起こし名号
をあたえて救おうとされてい
る阿弥陀仏であり、阿弥陀さ
まのはたらきそのものにある
ことを確認する必要があります
です。

その阿弥陀仏は「いろもな
く、かたちもまします」
(親鸞聖人)であり、さとり
の世界を直接知ることのできな
い私達のために、「南無阿弥陀
仏」という名号をあたえて
下さっているのです。
しかしながら、私達には阿
弥陀さまの大きなはたらきを
イメージするのはなかなか困
難であり、覚

如上人(第三代宗主)は、
「深く仏を信じ、敬い慕うた
めに、絵像木像の本尊を彫
刻、図画す」(「改邪鈔」記)
とされて、以降は名号本尊と
ともに絵像木像の本尊も礼拝
の対象とされてきました。
確かに親鸞聖人は、他宗に
おいて絵像木像を現世利益の
対象として偶像化する風潮が
あり、名号本尊を依用されま
したが、けつして「名号本尊
でなければならぬ」とは云わ
れていません。
蓮如上人の仰せも宗祖と同
じ思いがあつたと考えられま
す。
「御一代記聞書」の言葉だ
けをもつて、真宗では絵像木
像は礼拝の対象にしてはいけ
ないと決めつけることは適当
ではなく、大切なことは、仏
様のお心が最も正しく受け取
ることのできるお姿が、私に
とってふさわしい礼拝の対象
といえるのではないでしょう
か。

題材法話

浄土真宗のみ教え ①⑥

「報恩の念仏」

*拝読「浄土真宗のみ教え」の24頁をお読み下さい。

の苦しい時の神だのみ
温泉水など心仏は、逆
にだけ出る念仏は、自
分の都合に合わせ、勝
手極まりないもので本
物とはいえないのでし
う。

も、ただし本来の念仏で
の、称える念仏の力、功
徳、を他に仕向けよう
とすることが基本には
あります。

○浄土真宗のお念

仕向ける「念仏の功德を
向」といいます。



「親鸞聖人は和讃に
て、小慈大悲なまの
まじ」と詠まれて、も
ずかば「この身を救
あらぬは、考へられ
となどは、他に仕向
ずもなく、他に見抜
る力など、全くない
であることを見抜か
ました。

阿彌陀如来が私達を
捨てることのできず、
一必ず救う」との誓
を、立て本願を成就
たと南無阿彌陀仏の
には、浄土往生のす
の、功德が備わって
り、私の回向による
陀様の回向によるも
なで、私達に救はる
念仏を称えるのは
うか。阿彌陀

願に、出あえ喜



「不回向」ともい
す。

○「自力の念仏」と
他力の念仏

親鸞聖人は、自ら
える念仏の力によ
お浄土に往生しよ
する念仏は、自力
念仏とし、雑業と
んでお浄土に往生
るお念仏ではないと
定されまし。

と、対して、仏に
たちの必す救うと
れた本願をそのま
受け入れ、よろこ
な、ありがたし、の
を、一他力の念仏
し、真実信心のお
とされ、信心のお
○母を呼ぶ子の声

必死で、おあつた
ん、死おあつた子
呼び続けようや
出、して、くれた
親



ります。前者は我が
親を求め、我が声
り、後者は親に見
られた喜びが思わ
となつて出た呼び
す。

我が声の力で親を
める「おあちやん
はいわば、自力の
声」で、願いが叶
証はありせん。

て「一方、親に出
ん「は、既に会
と、いう厳然たる
先に立ち、もので
あ、あちやん」と
出、会いの条件で
く、心のよかつた
う、心の表れです
は、さらに悦びの
は、あちやんは、
声であり、ながら
存在により、他力
びた、声」とい
す。